

荒俣地区海岸林の植樹活動に参加しました

令和5年11月19日（日）、黒部市荒俣において荒俣地区松枯対策協議会が主催する植樹活動に参加しました。

近年、荒俣地区の海岸林において、松くい虫（マツ材線虫病）による松枯れ被害が拡大し多くの松が枯死しました。被害木の伐倒等で松林が減少する中、令和4年3月に荒俣地区松枯対策協議会が設立されており、荒俣地区の海岸林の復活と、被害前の美しい景観の再生を目指しておられます。

活動には、協議会会員と荒俣地区住民の方々、地域の子どもたちなど77名が参加しました。当日は、前日の大雨が止み曇り空の中、スムーズに開催することができました。

開会式では、協議会の寺田会長、木島市議会議員が挨拶され、センター職員が水と緑の森づくり事業や松くい虫被害の説明を行った後、記念樹（ヤブツバキ）3本を植えました。そして、新川森林組合から手順を説明した後、抵抗性クロマツの植樹活動が行われ、途中参加された武隈黒部市長とともに、150本の苗木を植えました。

またこの活動は、「県民による森づくり提案事業」として実践されており、防風・防砂林として海岸林機能を回復するとともに、地域の子供達にも参加してもらうことで、歴史ある海岸林を次世代に受け継いでいく願いも込められています。活動時、親子で会話を交わしながら手植えする姿や、友達と笑い合いながらスコップで土をかぶせている姿を見ると、特に大切な光景であると感じました。今回植栽した苗木が順調に育ち、荒俣の海岸林がよみがえることを、心より願っております。



参加者全員で記念撮影



開会式



標柱の設置完了！



子供たちで、記念樹の周りに土をかぶせます



記念樹（ヤブツバキ）の植樹



植樹手順の説明



抵抗性クロマツを植樹します



皆さん手際良く植えておられました



堆肥を混ぜた土をかぶせて、地面を固めました